NPO法人 鹿児島砂防ボランティア協会設立

技術を地域の安全に

行政のパートナーとして、安全で安心なまちづくり推進しよう―と、県の土木部OBらで組織するNPO法人鹿児島砂防ボランティア協会（稲田博会長）の設立総会が19日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで開かれ、設立に至るまでの経過や定款などの説明が行われた。

冒頭、主催者を代表して稲田会長が「平成7年に鹿児島砂防ボランティア協会を創設したが、近年の災害状況を踏まえると土砂災害を未然に防止するという意識を住民全体で共有する必要性を感じた。そのためにも法人格を取得し、土砂災害に関する啓発活動や情報収集及び提供のほか、長年にわたり培ったわれわれの技術を地域の安全に役立てたい」と挨拶した。

同法人は、土砂災害から県民の生命・財産を守るため、危険個所の点検や安全なまちづくりの啓発・推進及び土砂災害防止施設の点検・保全などの事業を行い、県民の福祉に寄与することを目的に設立された。法人格として九州で3番目、全国では10番目の設立となる。現在、会員は116人。

土砂災害の啓発も行いたい――と挨拶する稲田会長＝鹿児島市のかごしま県民交流センターで

に意見を交わした例会
＝鹿児島市のソフトプラザかごしまで

異業種交流

e―和空間研究会例会
企業経営の合理化等

e―和空間研究会（会長・田畑隆建築工房栄代表）は18日、鹿児島市のソフトプラザかごしまで第7回例会を開き、同研究会における今後の具体的方策や、先進地視察の日程等を決めた。

同日は、会員ら13人が出席し、「和空間」と「癒し」をテーマにした成果品の製作に向けた今

2月2日に開催される第8回例会までに、屏風など数種類のデザイン案を提出するほか、吸湿性に優れる生地や、畳、屋久杉の製品を各自持ち寄り、成果品のイメージをある程度具体化することを申し合わせた。

今後のスケジュールは、2月2日に第8回例会、3月初旬に先進地（京都

目指す。

同研究会は、中小企業者の異業種交流に対する意識を啓発し、グループ化によるその活動を支援することにより、中小企業の経営の合理化や新分野の事業展開を図る「かごしま異業種交流支援事業実行委員会（鹿児島市、県中小企業団体中央会等）」の1分科会。会員は、住宅建築に関わる事業者（建築士、畳、内装、建具等）をはじめ、大島紬や生糸、屋久杉製品製造業者で構成される。

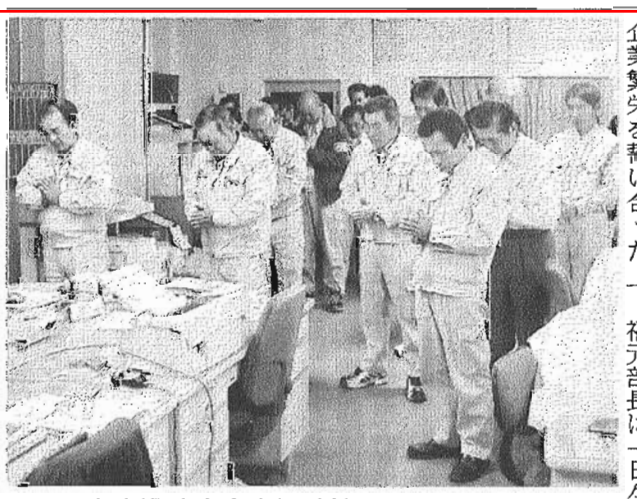
末吉建設山神祭

企業繁栄を誓う

末吉建設㈱（末吉晴海社長、鹿児島市）はこのほど、同市の本社事務所で山神祭及び安全大会を開き、社員ら約40人が参加、今年1年の災害ゼロを目指すとともに、さらなる企業繁栄を誓い合った。

神事では、祝詞奏上の後、福元俊英工事部長をはじめ、社員一人ひとりが玉ぐしを捧げ、交通事故や三大災害などの撲滅、工事の安全を祈願し神事が滞りなく行われた。

福元部長は「日々の朝礼でKY活動の励行や始業前の点検を徹底してきたことが無事故無災害につながっている。今後も安全なくしては繁栄はないという理念に基づき、安全第一を基本に、油断することなく気を引き締め、社員一人ひとりが強い安全意識を持って災害防止に取り組んでほしい」と話した。


心を込め安全を祈る社員ら
＝鹿児島市の同社で

火気認定除外・営業手法セミナー

見込み客発掘方法等

九州電力

九州電力㈱鹿児島支店は19日、大口市の大口文化会館で「火気認定除外・営業手法セミナー」を開き、建設業者や設計事務所、電気工事業者、家電業者ら約30人が出席してオール電化住宅の効果的な販促手法等について学んだ。昨年、県と鹿児島市が電磁誘導加熱調理器が建築確認での「火気」扱いに該当しないと判断したことによる。

冒頭、瀬戸口達郎大口営業所長は「電気料金値下げにより、オール電化住宅の顧客が最もその恩恵を受ける。県と鹿児島市の判断を追い風として、安全で経済的、クリーンなオール電化住宅を、新築、リフォームを問わずさらに普及を進めていただきたい」と挨拶。続いて、沖田清ADL地域建築デザイン研究所長が講演を行った。

沖田氏は「火気認定除外で何が変わり、営業をどう進めるか」と題してIHクッキングヒーターの安全性や、ビルダー会員が総ヒノキムク材のオール電化住宅を受注したこと、さらにメーカーでは新しい換気システムを開発しており、垂壁のない新しい建築空間が創出されつつあること―など具体的な例を示した。

また、小野裕美日本増改築産業協会九州一高商会事務局長も「オール電化からリフォーム工事へ」の表題のもと、見込み客の発掘方法や、機器取り替えからリフォームへ、さらには建て替え工事受注へつなげていく手法などについて詳細に説明。参加者はオール電化ブームの波に乗ろうと、メモを取りながら熱心に聴き入っていた。

具体的な販促手法を学んだセミナー
＝大口市の大口文化会館で

中小企業経営セミナー

環境経営の効果等学ぶ

エコサポートTGAL

NPO法人エコサポートTGAL（久留正成理事長）は19日、鹿児島市の市社会福祉協議会ボランティアセンターで「儲かる環境経営の進め方」と題した中小企業経営セミナーを開き、参加者は

環境経営のポイントを

診断士・環境カウンセラー及びKES主幹審査員でもある久留理事長が講師を務め、地球環境問題や大手企業の環境への取り組み状況など最近の動向のほか、中小企業の環境経営戦略について、環境経営の効果や環境マネジメントシステムの概要等を説明した。

企業や個人が皆で環境保全に取り組んでいくことが必要。中小企業も環境規制に受け身になるのでなく、トップが経営方針・戦略をクリアにし、使いこなせて身の丈に合うシステムを導入することで経費削減や社員の活性化となり、さらに

大口土木 河川愛護団体表彰

集落内 河川の美化清掃評価

大口市の辺母木公民館（今吉光雄代表）及び白木上公民館（山口武盛代表）は、集落内河川の美化清掃に努めたとして県知事表彰を受け、19日、県大口土木事務所で木場健三所長から伝達された。

県では毎年5月21日から6月20日までの河川愛護月間に、河川愛護思想の高揚と実践に功績があった団体を表彰しており、両公民館は昨年、辺母木川及び白木川で堤防草刈や河川整備等を実施したことが認められての受賞となった。辺母木公民館は14年、大口市長表彰も受けている。

木場所長は「管内で県が管理する支川は28カ所。行政だけでは手が回らない部分もあり、地元住民のこのような活動はありがたい。今後ともご理解とご協力をいただきたい」と笑顔を見せていた。

写真に納まる木場所長（左）と受賞者らー大口市の県大口土木事務所で